

平成25年度授業シラバスの詳細内容

| | | | |
|---------------|---|-------|---------|
| 科目名(英) | 政治学概論A(Survey of Political Science A) | 授業コード | K003851 |
| 担当教員名 | 鄭 敬娥 | | |
| 配当学年 | 3 | 開講期 | 前期 |
| 必修・選択区分 | 選択 | 単位数 | 2 |
| 履修上の注意または履修条件 | | | |
| 受講心得 | 新聞やニュースなどに常に注目し、自分なりの考え方・疑問を整理して授業に臨む。 | | |
| 教科書 | 北山 俊哉・馬淵勝ほか編『はじめて出会う政治学 ―フリーライダーを超えて』(有斐閣アルマ、2009年) | | |
| 参考文献及び指定図書 | 特になし | | |
| 関連科目 | 国際政治学、国際政治事情 | | |

| | |
|-------|--|
| 授業の目的 | 政治学をより身近なものとして感じてもらう。そのために、政治の基本的な仕組みを理解し、日々の出来事を事例にしながら、政治的諸事象を把握する構造的な観点を獲得する。 |
| 授業の概要 | 授業では、具体的な政治の仕組みを理解するために、官や民、企業など政治的アクターの行動原理およびその相互作用を理解する。それとともに、自らの周りにおける「政治的」事象に関して、その背景にある考え方、問題点、解決策などを報告してもらう。 |

| ○授業計画 | |
|-------------------|------------------------|
| 学修内容 | 学修課題(予習・復習) |
| 第1週： 政治学とは | |
| 第2週： 鉄の三角同盟 | 演習課題、身の回りにおける利権構造を調べる。 |
| 第3週： 多元的民主主義 | 第3回～14回 配布資料、演習課題 |
| 第4週： 官と民の関係 | |
| 第5週： 大企業と政治 | |
| 第6週： 選挙と政治 | |
| 第7週： 地方分権 | |
| 第8週： マスメディアと政治 | |
| 第9週： 国会 | |
| 第10週： 内閣と総理大臣 | |

| | | |
|--------------------------|--|--|
| 第11週： 官僚 | | |
| 第12週： 戦後日本の政治① | | |
| 第13週： 戦後日本の政治② | | |
| 第14週： 戦後日本の政治③ | | |
| 第15週： 総括 | | |
| 第16週：期末試験 定期試験 | | |
| 授業の運営方法 | (1)授業の形式 | |
| | (2)複数担当の場合の方式 | |
| | (3)アクティブ・ラーニング | |
| 備考 | 社会的事象のなかで、興味のあるテーマを選び、1～3人で報告を行う。それをもとに毎週20分～30分間議論する。 | |

| | |
|-----------------------------|---------------|
| ○単位を修得するために達成すべき到達目標 | |
| 【関心・意欲・態度】 | ディベートへの参加度など。 |
| 【知識・理解】 | |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 | |
| 【思考・判断・創造】 | |

| ○成績評価基準(合計100点) | | | 合計欄 | 100点 |
|--|-----------------|---------------|--------------|------|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | 期末試験・中間確認等(テスト) | レポート・作品等(提出物) | 発表・その他(無形成果) | |
| 【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | 60点 | 20点 | 20点 | |
| 【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。 | | | | |
| 【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | | | | |
| 【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。 | | | | |
| (「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。 | | | | |

| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 | |
|------------------------------------|------------------------|
| 成績評価方法 | 評価の実施方法と達成水準の目安 |
| レポート・作品等(提出物) | 基本的な概念の理解度および引用元の提示など。 |
| 発表・その他(無形成果) | ディベートへの貢献度など。 |